

文化情報誌

たわわ

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

2025 No.125

ダンサーの未来に寄り添う



揮毫：武田双雲



東京で生まれ、4歳で鎌倉稲村ヶ崎に移りました。社会人になり就いた設計の仕事が激務だったこともあり、30歳の時に通勤に便利な藤沢に移り住みました。

2011年に父が亡くなったのを機に、母と一緒に住もうと家探しをはじめ、縁あって松風町に家を買いました。海が近く松林が多く、懐かしいような古き良き湘南といった空気感があり、ゆったりと時間が流れている感じが心地よく大好きな街になりました。

バレエとの出会いは七里ガ浜の海辺にあった「パヴロバ・バレエスクール」（日本のバレエ教育発祥とされる）に姉が通っており、レッスンに付いて行ったことから始まります。建築好きな子どもだった私の興味はバレエよりも昭和初期に建てられたスクールの西洋風建築にありました。そんな私にナデジタ・パヴロバ先生は邸内をご案内くださり、飽きることなく何度もレッスンを眺めて過ごし、吹き抜けの美しいレッスン室や窓から差し込む光、輝く海・・・それは建築家を志す原風景のひとつとなりました。

大学を卒業してゼネコンに就職したものの、病気がちで休日は寝て過ごす私を見兼ねた姉が、大人クラスのあるバレエスタジオに誘いました。最初は体のためと我慢して嫌々通っていましたが、続けるうちに体力がつき、治らないと云われた持病が寛解し、設計の仕事をすることができました。

40歳を過ぎ、『人生を80年とすると折り返し地点。残り40年をいかに生きるか?』と考え始めました。それまでを振り返り、多くの出会いに支えられて今があることに感謝して、何らかの形で子どもたちの成長に関わっていききたいという想いに至りました。ちょうど新しいバレエコンクールが増えつつある頃でした。「成長期のダンサーのためには競うだけではなく、学びを大切にしたいコンクールがあっても良いのでは?」と思い、次世代のダンサーたちへの育成支援を通じてバレエへの恩返しもできるかもしれないと考えて、仲間と共に任意団体を立ち上げ、2013年から藤沢市で湘南バレエ・コンペティションを開催、この活動を『社会還元』と呼び、ワークショップ、海外留学のサポートを行ってきました。立ち上げの際には我々の想いを体現するようなアイコンをぜひ湘南地域のアーティストにと願っていたところ、書道家 武田双雲さんにご縁を頂くことができました。以来、『舞』は私共の力の源となっています。

2021年12月に『NPO法人湘南バレエ・コンペティション』として法人化し、拠点を平塚市に移し再スタートを切りました。建築家で元東海大学教授の杉本洋文先生からのご紹介をきっかけに、2022年より湘南バレエ・コンペティションはひらしん平塚文化芸術ホールとの共同開催が決まり、積年の夢であった開催期間中に丸一日ワークショップのみを行う学びのプログラム『湘南舞道（しょうなんぶどう）』もスタートすることが出来ました。また、最新の設備が整っており、コンペティションに参加した方からは「舞台が広くてとても踊りやすい」「リハーサル室が広くて綺麗」などの声もいただき、成長期のダンサーたちが最高のパフォーマンスができるよう、より良い環境を提供したいと考えていた私共にとって大変有難いことになりました。



クラシックバレエワークショップ

湘南舞道

雲麓

揮毫：木村雲麓

芸術は日常の中に常に存在しているものですが、バレエは特別なものと感じている方が多いと思います。そういった心のハードルを下げて気軽に芸術に触れる機会を作っていきたいので、『親子でダンス体験』『大人のためのバレエレッスン』などの企画も行っています。ハワイエにはバレエショップをはじめ色々なお店が登場しますし、コンペティションはどなたでも無料でご覧いただけるので、ぜひお出かけください。



親子でダンス体験

私たちのコンペティションには全国から参加者が訪れます。美術館・図書館・博物館など文化・芸術系の施設や、ショップや飲食店ともバレエ、ダンスをテーマに繋がる企画を

できたら、平塚の魅力を多くの方に知って頂く機会にもなるのでぜひご協力を頂きたいと願っています。

今後も『ダンサーの未来に寄り添う』の理念に基づき、これからのダンサーたちに何が必要かを考え、ブラッシュアップしていきたいと思います。私も含め社員がボランティアで事業を行う異色の組織ですが、利益を追求しないからこそできることもあると思います。この活動を続けていけるのは、理念に共感して審査員・講師を快く務めてくださる素晴らしいダンサーの皆様あってのことですし、平塚市をはじめ地域のあたたかいご支援にも心から感謝しております。

これからも、いつも誰かの夢にちょっとだけ背中を押せるような存在でありたいと願っています。コンペティションは通過点でしかありませんが、ダンサーを夢見る子どもたちが少しずつ夢に近づいていく姿を、陰ながら見守ることができるのはとても幸せです。そして、ダンサーへの夢をかなえ、指導者となり、舞台芸術の深化を支えていくことを期待しています。短期の成果だけではなく長い時間をかけて良い循環を実現していく、これが私たちの理想とする『社会還元』です。

【プロフィール】 斎藤 葵

NPO法人湘南バレエ・コンペティション 理事長。
一級建築士。

鎌倉稲村ヶ崎で育ち、藤沢市を経て、現在平塚市に在住。会社員の傍ら、2012年に湘南バレエ・コンペティション事務局を立ち上げてバレエコンクールやワークショップの開催、海外留学のサポートなどを行う。2021年にNPO法人化。活動拠点を平塚に移し、2022年3月の「ひらしん平塚文化芸術ホール」オープニングウィークへの参画を経て、現在に至る。今年も「第12回湘南バレエ・コンペティション」（9月12日～15日）開催に向けて、鋭意準備中。未来のダンサー育成支援、舞台芸術の発展や平塚市を含めた湘南地域の芸術文化振興に積極的に力を注いでいる。



木谷^{みのる}實・星のプラザ通信①

「木谷實・星のプラザの常設展示」

ひらしん平塚文化芸術ホール2階にある「木谷實・星のプラザ」では、かつて平塚市桃浜町に居を構え、若手棋士の育成に尽力された故木谷實九段の人柄や功績のほか、囲碁に関する展示を行っています。展示内容は大きく2つに分けられ、年間通して御覧いただける「常設展示」と、4カ月ごとに展示内容が入れ替わる「企画展示」を行っています。

木谷實・星のプラザ通信1回目となる今回は、常設展示について御紹介します。

●木谷道場模型●



中央手前には、当時の木谷道場を詳細に再現したジオラマを展示しています。多くの内弟子たちが木谷道場で囲碁に打ち込んだ、当時の情景が想像されます。



右側壁面では、木谷實の人柄や功績に関する展示をしています。

●木谷實の足跡・年譜●

昇段時の免許状や棋譜、年譜等の展示を行っています。囲碁に親しんだ幼少期から昭和50年に66歳で逝去されるまでの足跡をたどり、囲碁に向き合った木谷實の生涯をお伝えします。

●木谷實と新布石●

昭和8年、木谷實と呉清源により編み出された布石法「新布石」について、当時の刊行物等を展示しています。いかに世間の注目を集め、現代にまで影響のある出来事だったかが伝わってきます。



●木谷實と門下生●

木谷門下生の一覧や、タイトルを獲得した門下生たちからの木谷實と美春夫人への感謝の手紙などを展示しています。多くのプロ棋士を輩出した木谷門下に関する資料からは、囲碁の普及と棋士の育成にかけた木谷實の思いをうかがうことができます。

●企画展示情報●

開催期間：令和7年5月31日(土)～令和7年9月30日(火)
企画内容：「囲碁と錦絵―水口コレクション―」

姉妹都市カウナス市で『須賀どっこい』フラッシュ・モブ

姉妹都市であるリトアニア共和国カウナス市で5月上旬に開催された「Japan Days in Kaunas WA」(以下、「ジャパンデイズ」)に、カウナス市から招待を受けた落合市長をはじめとする平塚市訪問団が参加しました。



©Mantas Zinkevičius

「ジャパンデイズ」とは、日本の文化や魅力を紹介する芸術品や写真の展示会、コンサート、映画上映などが実施されるカウナス市の一大イベントです。日本からも多くの自治体や団体が参加しており、平塚市も2022年の開催からオンラインなどさまざまな形で参加しています。

なかでも一番の盛り上がりを見せるのが、事前に呼び掛けられた人たちが公共の場を集まり、パフォーマンスを行う「フラッシュ・モブ」



©Mantas Zinkevičius



©Mantas Zinkevičius

です。2023年から実施され、これまで累計3,000人以上のカウナス市内の学生が平塚市の『七夕おどり』を披露してきました。

今年は2018年からパートナー校として友好を育んでいる港小学校とカウナス市のパネムネ小学校の学校間交流により、『須賀どっこい』のフラッシュ・モブが実現しました。『須賀どっこい』は平塚市の港地区に伝わる踊りで、海や祭り、神輿をイメージした「よさこい」です。

当日は晴天の下、カウナス市内の約1,200人の学生が参加し、本市訪問団やカウナス市職員と一緒に踊りました。全員で踊る『須賀どっこい』は、カウナス市が平塚市を想う気持ちが形となった感動的なイベントになりました。

その映像をこちらの二次元コードからご覧いただけます。(カウナス教育イノベーションセンターのYouTubeにアクセスします)



ひらしん平塚文化芸術ホール 主催事業レポート Vol.7

ひらしん平塚文化芸術ホールで実施している、さまざまなジャンルの事業の様子をお届けする主催事業レポート。第7弾の今回は、「STAGE 驚・感・楽シリーズ」をご紹介します。

このシリーズでは、初めての出会いや新鮮な驚きを提供する、演劇やダンスパフォーマンス、古典芸能、寄席演芸、人形劇、お笑いライブなどのエンターテインメント性の高い実演芸術公演を実施しています。

これまでに「劇団ドクトペッパズ『ダンボーレ!』」や「よしもとお笑いライブin平塚」、「人形劇団ひとみ座『ふしぎ駄菓子屋 銭天堂』」、「神田伯山 独演会」、「G-Rockets『アクロバットダンス・サーカス』」等を開催し、子どもから大人まで多くの方にお楽しみいただいています。

令和7年5月11日には、M-1グランプリ2007王者のサンドウィッチマンなど、グレープカンパニー所属の人気芸人が大集合するお笑いライブ「笑いイチin平塚」を開催しました。

この日は正午からと午後3時45分からの2公演でしたが、2公演とも前売りで完売となり、開場を待つ観客であふれたエントランスホール、満員の観客席は開演前から期待感であふれていました。

大きな拍手で迎えられた1組目の「ロケット団」から「フランスピアノ」、「カカロニ」、「ああ〜しらき」、「お見送り芸人しんいち」、「わらふぢなるお」、「カミナリ」と続き、漫才やコント、楽しいトークなどで会場のボルテージが高まる中、トリを務めるサンドウィッチマンが登場。テレビでも大人気のベテランコンビの熟練のトークと、おなじみの漫才ネタで盛り上がりは最高潮に。休憩なしの2時間があっという間に過ぎていく中、会場となった大ホールでは、何度も観客の大きな笑い声が響き渡りました。

出演芸人の皆さんの洗練された話芸やパフォーマンス、観客との掛け合いによる舞台と客席の一体感により、テレビやインターネットでは味わえない、ライブならではの興奮と感動が生み出されました。

今後もこのシリーズでは、驚きと感動を与えるさまざまなジャンルの楽しいエンターテインメント作品をお届けしますので、楽しみにしてください。



発行 平塚市文化・交流課

〒254-8686 平塚市浅間町9-1

電話 0463-32-2235

FAX 0463-21-9756

E-mail: bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

令和7年(2025年)6月15日発行

右の2次元コードより
文化情報誌「たわわ」へ
アクセスできます



平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。

基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。